

本品を使用するにあたっての研修プログラムは以下の5つによって構成される。

1 座学

1) 製品の詳細説明

- 製品の誘導について：アクセス、ガイディングシステム。サポートデバイス（いわゆるdistal access catheter）、マイクロカテーテル（Marksman）、ガイドワイヤー
- 製品について：構造、サイズ、製品構成など

2) 国内外臨床試験データのレビュー

- PITA, PUFsなど海外で行われたキースタディの結果
- 国内臨床試験の結果と得られた知見

3) 症例レビュー

- 適応
 - 血管径、留置部位の計測とサイズ選択
 - 留置手技のポイント
 - 抗血栓療法と経過観察
- 4) 添付文書等に基づく手技にかかる注意点及び発生し得る不具合・有害事象
- 予想されている不具合、有害事象の種類と対応
- 5) 総合討論・質疑応答

2 ハンズオン

- 透視下での血管モデルを用いたハンズオントレーニング
- 本品の留置に必要な基本的動作の解説と実践

3 症例見学

- プロクター医師による臨床症例を最低2例見学

4 医師プロクターシップ

- 症例見学2例実施後とする
- プロクター医師によるプロクター症例を最低5例実施
- 実施前に症例のコンサルティングを行う

5 社内スペシャリスト立会い

- 医師プロクターシップ5例実施後とする
- コヴィディエン/メドトロニック社内にて認定を受けた社員が立会いを最低5例行う

（註）研修プログラムにおける全ての症例は、適応を遵守して実施・運営を行う

本研修プログラムはメドトロニック社が作成し、関連三学会適正使用指針策定委員会および日本脳神経血管内治療学会が承認した。